

特集：児童文学のクエナイハナシ



世に「清貧」という言葉あり。

文化、それも「子どもの本」という「夢ある仕事」でカネのハナシはナシ？

しかし、

本は文化で商品だ。

作家だって、出版人だって、本屋だって、「霞を食って」は生きていけない。

「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」

(日本国憲法第二五条)

私たちには文化的な生活を営む権利がある。

その「文化」の創り手が食っていけないと嘆く。

そんな社会が豊かと言えるか？

見かけに寄らず、崇高な理想主義に依る特集なのである。